

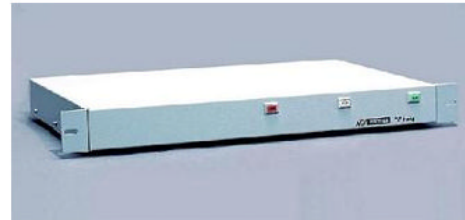
# AL-500V2

## 断線警報器

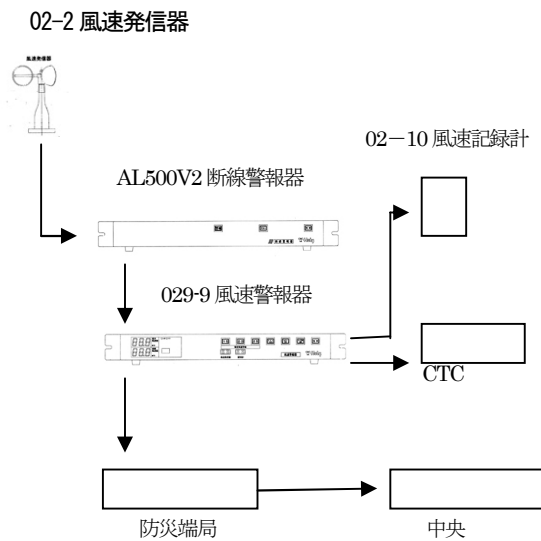


本装置は、三杯型風速発信器と風速監視機器（送量器・警報器・記録計）との間に設置し、常時回線状態をチェックすることで風速監視システムの信頼性を向上させるための装置です。断線、短絡、又は無風状態を検出すると警報ランプ、警報ブザー、及びリレー接点によって回線異常を出力します。

※風速発信器は交流発電式のセンサーで、風速に応じた信号（電圧及び周波数）を発生します。風速監視機器は、風速発信器からの信号を受けて風速値の記録及び出力を行うため、信号入力がない場合（無風時含む）は風速 0m/s と判断します。ところが風速発信器の回線が断線又は短絡していた場合でも 0m/s と判断してしまいます。



## 系統図



### 機器仕様

ブザー鳴動：回線断線、短絡及び 24 時間無風時

警報 LED: 早い点滅：断線時

：遅い点滅：短絡時

：点灯時：無風状態が 24 時間継続時

テスト LED: 点滅：50Hz(風速 45m/s 相当)以上の周波数信号受信時

システムアラーム：機器異常時

外部入力：風速発信器

外部出力：監視装置、送量器、警報器、記録計

：エラー 1：断線

：エラー 2：短絡

：エラー 3：無風

：装置異常

：テスト（リモートテスト用）

電源：AC100V±10% / DC24V~48V±10%

絶縁抵抗：電源端子と筐体間を DC500V メガーで測定し 5MΩ 以上あること

耐電圧：電源端子と筐体間に AC100V を 1 分間加え

異常のないこと（但し保安器は外すものとする）

仕様環境：温度：0~40℃ 湿度 35~85%